



「津崎・熊谷裁判」事実はこれだ！④ 熊谷JR総連前書記長、 裁判所に来て堂々と証言したら！？

原告2名は、新たに熊谷JR総連前書記長を提訴しました。熊谷被告は「答弁書」を裁判所に提出しただけで、これまで2回あった口頭弁論に出廷しませんでした。

原告「準備書面（3）」に記載されている、第35回近畿地協定期委員会終了後の懇親会での熊谷書記長（当時）と新幹線関西地本浦谷書記長の会話では、問題となっている「9.8声明」や渡邊委員の発言について、「委員会は終わったんだから、いいじゃない。」と言いながら懇親を深めようとしています。

しかし、裁判において被告側は、「JR総連には、そこ出席していたJR総連の熊谷書記長によって報告され、それに基づいて対応が検討された。」と主張しています。定期委員会終了後は、「もう委員会は終わったから」と言っておきながら、JR総連に帰ったら「組織破壊だ！」と煽り立てていたのでしょうか。二枚舌を弄して労働者的人格否定をするのは、JR総連書記長として、否、労働者・人間として失格と言わざるを得ません。熊谷前書記長！法廷で真実を明らかにする責任がありますよ！

[原告ら準備書面（3）より] （下線は本紙編集者による）

浦谷：書記長、「9.8声明」について一言答弁して欲しかったですね。

熊谷：いやいや、公式なものじゃないから、そうはいかない。

浦谷：でも皆が見たんだから、知らん顔するのはね。

熊谷：まあまあそう言わないで、そういうことだから。

浦谷：総連が書いたということはハッキリしているので、知らん顔は良くないでしょ。

熊谷：まあね、それにしても渡邊さんが演壇の所まで話すとはね、どうなんですかね。

浦谷：山本議長もみんなも黙って聞いていたし、書記長だけがヤーヤー言いましたね。

熊谷：委員会は終わったんだから、いいじゃない。